

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

総括／分担研究報告書（令和2年度）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 総括研究報告

研究責任者 久松理一 杏林大学医学部消化器内科学 教授

研究要旨：難治性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）および希少難病（クローンカイトカナダ症候群等）に関する疫学調査研究、診断基準・治療指針作成、実地医家への啓発活動を通じて、患者 QOL 向上と医療経済への貢献を目指す。特に重点課題として各種レジストリ研究、緊急課題として COVID-19 対応をあげ初年度である令和2年度は診療ガイドライン作成、難病プラットフォームとの連携、COVID-19 タスクフォースの活動で成果をあげた。

共同研究者（研究分担者）

安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）

穂苅 量太（防衛医科大学校消化器内科）

仲瀬 裕志（札幌医科大学医学部消化器内科学講座）

杉田 昭（横浜市立市民病院臨床研究部炎症性腸疾患科）

西脇 祐司（東邦大学医学部医学科社会医学講座衛生学分野）

松本 主之（岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科消化管分野）

池内 浩基（兵庫医科大学医学部消化器外科学講座炎症性腸疾患外科）

金井 隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）

中村 志郎（大阪医科薬科大学医学部第2内科）

緒方 晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）

小林 拓（北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター）

松岡 克善（東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座消化器内科学分野）

猿田 雅之（東京慈恵会医科大学医学部内科学講座 消化器・肝臓内科）

清水 俊明（順天堂大学大学院医学研究科小児

科学）

平井 郁仁（福岡大学医学部消化器内科）

二見 喜太郎（福岡大学筑紫病院臨床医学研究センター）

石原 聡一郎（東京大学医学部腫瘍外科・血管外科）

長堀 正和（東京医科歯科大学医学部附属病院臨床試験管理センター）

岡崎 和一（関西医科大学香里病院）

江崎 幹宏（佐賀大学医学部内科学講座消化器内科）

野島 正寛（東京大学医科学研究所附属病院 TR・治験センター）

高橋 賢一（東北労災病院大腸肛門外科）

内田 恵一（三重大学医学部附属病院小児外科）

A. 研究目的

難治性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）および希少難病（クローンカイトカナダ症候群、非特異的多発性小腸潰瘍症（田口班）、家族性地中海熱関連腸炎（AMED 仲瀬班）、腸管型ベーチェット（岳野班））に関する疫学調査研究、診断基準・治療指針作成、実地医家への啓発活動を通じて、患者 QOL

向上と医療経済への貢献を目指す。

B. 研究方法

研究班は消化器内科、外科、小児科、疫学統計から構成され領域横断的研究を可能とする。研究プロジェクトは大きく6項目からなり、特に重点プロジェクトではレジストリ研究を中心に推進し、難病プラットフォームを積極的に利用する。また、他の研究班、学会、AMEDと緊密な連携をとっていく。患者参加型双方向性研究を取り入れながら国民と実地医家への啓発活動を行う。緊急プロジェクトとしてCOVID-19に関する情報発信、疫学調査研究などを推進する。

1. 総括的疫学解析プロジェクト
2. 診断基準・治療指針改訂プロジェクト
3. 重点プロジェクト

生物学的製剤新規導入患者レジストリ構築、炎症性腸疾患外科手術例のレジストリ構築、クローン病関連癌サーベイランス法の確立、潰瘍性大腸炎関連癌内視鏡治療例のレジストリ構築、IBD患者における妊娠・出産のレジストリ構築、高齢IBD患者レジストリ)、

4. 緊急プロジェクト IBD患者における新型コロナウイルス感染情報の収集と情報発信
5. 国民啓発と実地医家啓発プロジェクト
6. 腸管希少難病に関する実態調査と啓発活動プロジェクト

クローンカイトカナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症(田口班)、腸管ベーチェット病(岳野班、AMED水木班)、家族性地中海熱関連腸炎(AMED仲瀬班)

(倫理面への配慮)

レジストリ研究等については各施設において倫理委員会の承認を得て行っている。

C. 研究結果

初年度である令和2年度成果を以下に示す。

- 1) 炎症性腸疾患診療ガイドライン改訂版を日本消化器病学会との共同作業で公開・出版した。
- 2) 最新の治療に対応した潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針令和2年度改訂版を公開した。
- 3) COVID-19タスクフォースを立ち上げ定期的な情報発信、診療への提言を行った(SECURE-IBDサマリー計16報、エキスパートコンセンサス(Digestion誌、日本消化管学会誌)、ワクチンQ&Aなど、Webセミナーの開催など)。また多施設共同研究として日本人COVID-19感染IBD患者のレジストリ研究(J-COSMOS)やCOVID-19が患者行動変容に与えた影響の調査(J-DESIRE)などが既に進行中である。
- 4) 各レジストリ研究の立ち上げ。難病プラットフォームを利用するプロジェクト(新規発症、外科治療、高齢、妊娠・出産)については難病プラットフォームとの契約を締結した。潰瘍性大腸炎関連癌内視鏡治療例、生物学的製剤新規導入患者レジストリについても関連学会等との連携の上で進行中である。
- 5) 国民啓発と実地医家啓発プロジェクトとしては患者を含めた双方向性研究として食事療法の見直しを進め、青黛内服患者の実態調査(一次調査)が行われた。
- 6) 腸管希少難病に関する実態調査と啓発活動プロジェクトでは岳野班と協力して腸管ベーチェット病診療ガイドライン英文論文化(J. Gastroenterology誌)、AMED水木班のレジストリ研究への参加、岳野班の重症度判定基準作成への参加が行われた。クローンカイトカナダ症候群については診断カラーアトラスの作成が終了(令和3年度内に公開予定)し、データベースについて難病プラットフォームと利用契約締結に至った。非特異性多発性小腸潰瘍症(田口班)、家族性地中海熱関連腸炎(AMED仲瀬班)

についても関連研究班と連携しプロジェクトを進めている。

- 7) 小児～成人のトランジションについてはプロジェクトチームが発足した。ロタウイルス生ワクチン接種に関するエキスパートによる提言を公開した。

D. 考察

日本消化器病学会との共同作業として IBD 診療ガイドライン改訂版を公開した。今回の研究班の大きな特徴の一つは炎症性腸疾患の諸問題を解決するためにポイントを絞ってレジストリ構築に着手したことである。新規患者、外科治療、妊娠・出産、高齢患者については骨格が完成し難病プラットフォーム利用契約を締結した。新規生物学的製剤使用患者についてもレジストリの骨格が完成している。潰瘍性大腸炎関連癌内視鏡治療例のレジストリ構築については日本消化器内視鏡学会データベースとの連携が検討されている。また、本研究班の特徴として小児科を含む多領域から構成されていることが挙げられるが、小児 IBD 医との連携で小児 IBD 治療指針やロタウイルス生ワクチン接種に関する提言を公開した。さらに、これまで行われてこなかったこととして、新たに患者参加型のプロジェクトとして食事療法・食事指導の見直しが行われている。炎症性腸疾患は慢性難治性疾患であり患者を中心とした多職種による診療の推進は重要な課題である。初年度は COVID-19 感染拡大により炎症性腸疾患診療も大きな影響を受けた。本研究班は 2020 年 4 月の段階でいち早くタスクフォースを結成し、定期的な情報発信、診療に関する各種提言を行ってきた。最近ではコロナウイルスワクチン接種に関する情報も提供している。さらに日本人 COVID-19 感染 IBD 患者のレジストリ研究 (J-COSMOS) や COVID-19 が患者行動変容に与えた影響の調査 (J-DESIRE) などが既に進行中である。希少疾患についても他の研究班と緊密な連携のもと

に進められており、クローンカイトカナダ症候群についてはカラーアトラスが完成し公開予定であるとともにレジストリ研究が難病プラットフォームを利用して行われることが決定している。

今後の課題は構築した各種レジストリの運用開始、COVID-19 に関する疫学調査研究、小児～成人のトランジションについての提言、患者を含めた双方向性の取り組みの推進と考えられる。

E. 結論

消化器内科、外科、小児科、疫学統計専門家からなる研究班を立ち上げ、炎症性腸疾患診療ガイドラインの作成、レジストリ研究の立ち上げ、COVID-19 への対応、患者と実地医家への啓発活動、希少疾患のレジストリと啓発活動の推進を行った。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

診療ガイドライン

- 1) 炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン 2020 改訂第 2 版 編集 日本消化器病学会 協力学会 日本消化管学会, 日本大腸肛門病学会 協力機関 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 南江堂
- 2) ベーチェット病診療ガイドライン 2020 厚生労働省科学研究費難治性疾患政策研究事業 ベーチェット病に関する調査研究班 難治性炎症性腸管障害調査研究班 編集 診断と治療社

疫学・自然史・予後に関する研究

- 3) Shinagawa Takahide, Hata Keisuke,

Ikeuchi Hiroki, Fukushima Kouhei, Futami Kitaro, Sugita Akira, Uchino Motoi, Watanabe Kazuhiro, Higashi Daijiro, Kimura Hideaki, Araki Toshimitsu, Mizushima Tsunekazu, Itabashi Michio, Ueda Takeshi, Koganei Kazutaka, Oba Koji, Ishihara Soichiro, Suzuki Yasuo, Rate of Reoperation Decreased Significantly After Year 2002 in Patients With Crohn's Disease. *Clinical Gastroenterology and Hepatology*, 18(4), 898-907, 2020. 4

- 4) Hata K, Ishihara S, Ajioka Y, Mitsuyama K, Watanabe K, Hanai H, Kunisaki R, Nakase H, Matsuda K, Iwakiri R, Hida N, Tanaka S, Takeuchi Y, Shinozaki M, Ogata N, Moriichi K, Hirai F, Sugihara K, Hisamatsu T, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T. Long-Term Follow-Up of Targeted Biopsy Yield (LOFTY Study) in Ulcerative Colitis Surveillance Colonoscopy. *J Clin Med*. 2020 Jul 18;9(7):E2286. doi: 10.3390/jcm9072286.
- 5) Kohyama A, Watanabe K, Sugita A, Futami K, Ikeuchi H, Takahashi KI, Suzuki Y, Fukushima K. Ulcerative colitis-related severe enteritis: an infrequent but serious complication after colectomy. *J Gastroenterol*. 2020 Nov 5. doi: 10.1007/s00535-020-01742-3.

妊娠、小児～成人のトランジション

- 6) Watanabe C, Nagahori M, Fujii T, Yokoyama K, Yoshimura N, Kobayashi T, Yamagami H, Kitamura K, Takashi K, Nakamura S, Naganuma M, Ishihara S, Esaki M, Yonezawa M, Kunisaki R,

Sakuraba A, Kuji N, Miura S, Hibi T, Suzuki Y, Hokari R. Non-adherence to Medications in Pregnant Ulcerative Colitis Patients Contributes to Disease Flares and Adverse Pregnancy Outcomes. *Dig Dis Sci*. 2021 Feb;66(2):577-586. doi: 10.1007/s10620-020-06221-6.

- 7) Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T. Transitional care for inflammatory bowel disease: A survey of Japanese pediatric gastroenterologists. *Pediatr Int*. 2021 Jan;63(1):65-71. doi: 10.1111/ped.14376.
- 8) Kumagai H, Suzuki Y, Shimizu T. Transitional Care for Patients with Inflammatory Bowel Disease: Japanese Experience. *Digestion*. 2021;102(1):18-24. doi: 10.1159/000510652.

IBD 診断・治療に関する報告

- 9) Nakase H, Matsumoto T, Watanabe K, Hisamatsu T. The shining DIAMOND for evidence-based treatment strategies for Crohn's disease. *J Gastroenterol*. 2020 Sep;55(9):824-832. doi: 10.1007/s00535-020-01702-x.
- 10) Nakase H, Hirano T, Wagatsuma K, Ichimiya T, Yamakawa T, Yokoyama Y, Hayashi Y, Hirayama D, Kazama T, Yoshii S, Yamano HO. Artificial intelligence-assisted endoscopy changes the definition of mucosal healing in ulcerative colitis. *Dig Endosc*. 2020 Sep 10. doi: 10.1111/den.13825.
- 11) Kikuchi O, Saito D, Miura M, Wada H,

Ozaki R, Tokunaga S, Minowa S, Fukuyama M, Mitsui T, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Ohyama M, Hisamatsu T. Two cases in which tofacitinib effectively treated both ulcerative colitis and alopecia areata. *Clin J Gastroenterol*. 2020 Oct;13(5):788-793. doi: 10.1007/s12328-020-01150-3.

- 12) Naganuma M, Kobayashi T, Nasuno M, Motoya S, Kato S, Matsuoka K, Hokari R, Watanabe C, Sakamoto H, Yamamoto H, Sasaki M, Watanabe K, Iijima H, Endo Y, Ichikawa H, Ozeki K, Tanida S, Ueno N, Fujiya M, Sako M, Takeuchi K, Sugimoto S, Abe T, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T. Significance of Conducting 2 Types of Fecal Tests in Patients With Ulcerative Colitis. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2020 May;18(5):1102-1111. e5. doi: 10.1016/j.cgh.2019.07.054.

COVID-19 に関する報告

- 13) Nakase H, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Wagatsuma K, Yokoyama Y, Hisamatsu T. Expert Opinions on the Current Therapeutic Management of Inflammatory Bowel Disease during the COVID-19 Pandemic: Japan IBD COVID-19 Taskforce, Intractable Diseases, the Health and Labor Sciences Research. *Digestion*. 2020 Sep 4:1-9. doi: 10.1159/000510502.
- 14) 仲瀬裕志, 松本主之, 松浦 稔, 飯島英樹, 松岡克善, 大宮直木, 石原俊治, 平井郁仁, 久松理一 COVID-19 パンデミック状況下における炎症性腸疾患の管理に

関する専門家の意見 JAPAN IBD COVID-19 TASKFORCE:厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 日本消化管学会誌 (早期公開)

希少疾患に関する報告

- 15) Watanabe K, Tanida S, Inoue N, Kunisaki R, Kobayashi K, Nagahori M, Arai K, Uchino M, Koganei K, Kobayashi T, Takeno M, Ueno F, Matsumoto T, Mizuki N, Suzuki Y, Hisamatsu T. Evidence-based diagnosis and clinical practice guidelines for intestinal Behçet's disease 2020 edited by Intractable Diseases, the Health and Labour Sciences Research Grants. *J Gastroenterol*. 2020 Jul;55(7):679-700. doi: 10.1007/s00535-020-01690-y.
- 16) Hayashida M, Miyoshi J, Mitsui T, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Kawashima S, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Kaname S, Okada AA, Fujimori S, Matsuura M, Hisamatsu T. Elevated fecal calprotectin and lactoferrin associated with small intestinal lesions in patients with Behcet disease. *J Gastroenterol Hepatol*. 2020 Aug;35(8):1340-1346. doi: 10.1111/jgh.14995.

2. 学会発表

- 1) Hisamatsu T (Invited Speaker). Current issue of IBD in Asia Smart use of thiopurine and anti-TNF: What should we know? AOCC 2020 2020 Dec 16 (Web)
- 2) Hisamatsu T (Invited Speaker). Is there still a place for anti-TNF in

- 2020 ? TSIBD Annual meeting “Change and Challenge of IBD Beyond 2020 in Taiwan” 2020 Dec 6 (Web)
- 3) Omoniyi J. Adedokun, Remo Panaccione, Tadakazu Hisamatsu, Maria T. Abreu, Rupert W.L. Leong, David Rowbotham, Colleen Marano, Yiyang Zhou, Hongyan Zhang, Silvio Danese, Waqqas Afif, Laurent Peyrin-Biroulet, William J. Sandborn, Bruce E. Sands. Pharmacokinetics and Immunogenicity of Maintenance Therapy with Ustekinumab: 2-Year Results from the UNIFI Long-Term Extension Study e-poster presentation ACG 2020 (Virtual Annual Meeting)
 - 4) Adedokun O. J., Panaccione R., Hisamatsu T., Abreu M. T., Leong R. W. L., Rowbotham D., Marano C., Zhou Y., Zhang H., Danese S., Afif W., Peyrin-Biroulet L., Sandborn W. J., Sands B. E., on behalf of the UNIFI Investigators. PHARMACOKINETICS AND IMMUNOGENICITY OF MAINTENANCE THERAPY WITH USTEKINUMAB: 2-YEAR RESULTS FROM THE UNIFI LONG-TERM EXTENSION STUDY UEGW 2020 (Web)
 - 5) Sandborn W. J., Chan D., Johanns J., Lang G., Adedokun O. J., Afzali A., Andrews J. M., D’Haens G., Danese S., Hisamatsu T., Panaccione R., Panés J., Reinisch W., Rubin D. T., Sands B. E., Feagan B. G., on behalf of the GALAXI 1 Investigators. THE EFFICACY AND SAFETY OF GUSELKUMAB INDUCTION THERAPY IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE CROHN’ S DISEASE: WEEK 12 INTERIM ANALYSES FROM THE PHASE 2 GALAXI 1 STUDY UEGW 2020 (Web)
 - 6) Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O’ Brien CD, Zhang H, Johanns J, Zhou Y, Peyrin-Biroulet L, Scherl E, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Hisamatsu T, Abreu MT, Danese S, Marano C. Efficacy of Ustekinumab for Ulcerative Colitis in Biologic Naïve, Biologic Non-failure, and Biologic Failure Populations Through 2 Years: UNIFI Long-term Extension. Digestive Disease Week 2020. May 2-5, Chicago(Web)
 - 7) Sands BE, Abreu MT, Leong RW, Marano C4, O’ Brien CD, Zhang H, Zhou Y, Johanns J, Rowbotham D, Hisamatsu T, Arasaradnam RP, Ellen Scherl E, Danese D, Peyrin-Biroulet L. Efficacy and safety of long-term treatment with ustekinumab in moderate-severe ulcerative colitis patients with delayed response to ustekinumab induction: Results from the UNIFI 2-year long-term extension. Digestive Disease Week 2020. May 2-5, Chicago (Web)
 - 8) 江崎幹宏, 渡辺憲治, 小林 拓, 武田輝之, 大森鉄平, 鳥巢剛弘, 上村修司, 芦塚伸也, 志賀永嗣, 久松理一 クロウン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義：全国多施設前向きコホート研究の進捗状況 ワークショップ1 IBD 診療におけるカプセル内視鏡 第14回日本カプセル内視鏡学会学術集会 2021年2月21日 Web
 - 9) COVID-19 パンデミック状況下における適切な IBD 診療の実践を目指して－JAPAN IBD COVID-19 TASKFORCE からの提言と取り組み 松浦 稔, 仲瀬裕志, 松本主之, 飯島英樹, 松岡克善, 大宮直木, 石原俊

- 治, 平井郁仁, 久松理一 会長特別企画
消化管治療と COVID-19 第 17 回日本消化
管学会総会学術集会 2021 年 2 月 19-21 日
Web
- 10) 松浦 稔, 齋藤大祐, 和田晴香, 尾崎
良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達
也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三
好 潤, 久松理一 当院における高齢発症
潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴と予後関
連因子に関する検討 ワークショップ 16
高齢者潰瘍性大腸炎治療指針の検証 第 17
回日本消化管学会総会学術集会 2021 年 2
月 19-21 日 Web
- 11) 齋藤大祐, 松浦 稔, 和田晴香, 尾崎
良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達
也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三
好 潤, 久松理一 家族性地中海熱関連腸
炎におけるコルヒチン投与の有効性 ワー
クショップ 15 消化管希少疾患の病態, 治
療に関する最新のエビデンス 第 17 回日
本消化管学会総会学術集会 2021 年 2 月
19-21 日 Web
- 12) 關 里和, 田中 弦, 三好 潤, 林田真
理, 松浦 稔, 櫻井裕之, 久松理一 難治
性小腸潰瘍症の原因遺伝子である SLC02A1
トランスポーターの機能解析 Functional
analysis of SLC02A1 transporter, the
causative gene of chronic nonspecific
multiple ulcers of the small
intestine ワークショップ 15 消化管希少
疾患の病態, 治療に関する最新のエビデ
ンス 第 17 回日本消化管学会総会学術集
会 2021 年 2 月 19-21 日 Web
- 13) 久松理一 炎症性腸疾患治療の進歩 ～
IBD の自然史は変わったのか? ～ 共催セ
ミナー 1 第 210 回日本消化器病学会東北
支部例会 2021 年 2 月 6 日 Web
- 14) 久松理一 潰瘍性大腸炎の治療実態を見直
す - レセプトデータベース研究から -
アフタヌーンセミナー 1 第 11 回日本炎
症性腸疾患学会学術集会 2020 年 12 月 5
日 Web
- 15) 齋藤大祐, 松浦 稔, 尾崎 良, 徳永創太
郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき,
櫻庭彰人, 林田 真理, 三好 潤, 久松理
一 Vedolizumab により治療された潰瘍性
大腸炎患者における内視鏡寛解達成をア
ウトカムとしたときの臨床経過の解析 パ
ネルディスカッション 2 「Tight Control
の実践のその課題」 第 11 回日本炎症性腸
疾患学会学術集会 2020 年 12 月 5 日 Web
- 16) 久松理一 グセルクマブの中等症から重症
の活動期クローン病患者での第 II 相試験
(GALAXI 1) の 12 週時の有効性及び安全
性 第 11 回日本炎症性腸疾患学会学術集
会 2020 年 12 月 5 日 Web
- 17) 松浦 稔, 齋藤大祐, 和田晴香, 尾崎 良,
徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 櫻
庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 仲瀬裕志,
久松理一 MEFV 遺伝子関連腸炎における小
腸および大腸内視鏡所見に関する検討 シ
ンポジウム 4 「小腸難治性疾患の診断と
治療」 第 58 回日本小腸学会学術集会
2020 年 10 月 24 日 JP タワー名古屋ホー
ル&カンファレンス
- 18) Hisamatsu T. Thiopurine for IBD - Is
it unnecessary anymore or should it
be used properly? International
Session (Symposium) 3 JDDW 2020 2020
年 11 月 5-8 日 神戸コンベンションセン
ター・Web
- 19) 久松理一, 松本主之 基調講演 JGES Core
Session 2 下部 UC/CD 以外の IBD (第 99
回総会) の結果報告 シンポジウム 1
JGES Core Session 炎症性腸疾患におけ
る最先端の内視鏡診療-IBD 関連腫瘍の診
断と治療 JDDW 2020 2020 年 11 月 5-8 日
神戸コンベンションセンター・Web

- 20) 久松理一 モーニングセミナー IL-12/23
の基礎から臨床 第44回日本リンパ学会
大宮ソニックシティ 2020年9月12日
- 21) 久松理一 (特別講演) 潰瘍性大腸炎治療
における Ustekinumab の役割 ~IL12/23
の基礎から臨床~ JSGE 2020 Hokkaido
第127回 日本消化器病学会北海道支部例
会 第121回 日本消化器内視鏡学会北海
道支部例会 2020年9月5日 TKP ガーデ
ンシティ PREMIUM 札幌大通
- 22) 松浦 稔, 斎藤大祐, 久松理一 MEFV 遺伝
子変異を有する IBD-U 症例の大腸内視鏡
所見に関する検討 JGES Core Session 2
炎症性疾患における最先端の内視鏡診療
下部 UC/CD 以外の IBD 第99回日本消化
器内視鏡学会総会 2020年9月2-3日 国
立京都国際会館・Web
- 23) 斎藤大祐, 松浦 稔, 久松理一 潰瘍性大
腸炎に対する Vedolizumab の寛解導入療
法における治療効果予測因子の探索的研
究 パネルディスカッション10 IBD の最
新治療新規薬剤登場により何が変わった
か 第106回日本消化器病学会 2020年8
月11-13日 Web・誌上開催
- 24) 尾崎 良, 斎藤大祐, 桜庭彰人, 松浦
稔, 久松理一 Deep remission が得られ
た潰瘍性大腸炎患者における再燃予測に
関する探索的研究-内視鏡スコアと便中バ
イオマーカールを中心に- 第110回日本消
化器内視鏡学会関東支部例会 パネルデ
ィスカッション1 2020年5月30-31日
Web 開催
- 25) 久松理一 特別講演 炎症性腸疾患に対す
る分子標的治療の進歩 第359回 日本消
化器病学会関東支部例会 2020年4月11
日 海運クラブ

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン 2020

改訂第2版



編集 日本消化器病学会

協力学会：日本消化管学会, 日本大腸肛門病学会

協力機関：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班

資料 6

南江堂

令和2年度 改訂版

(令和3年3月31日)

潰瘍性大腸炎・クローン病 診断基準・治療指針

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業

「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班)

令和2年度分担研究報告書

令和3年3月